



明神岳(長野県)

4

ジャピック

財団法人 日本医薬情報センター(JAPIC) 2010 / No.312

# JAPIC NEWS

## | C | O | N | T | E | N | T | S |

### ■巻頭言

「存在意義」 (財)日本医薬情報センター 理事長 首藤 紘一 ..... 2

### ■インフォメーション

「JAPIC Pharma Report 海外医薬情報」発刊のお知らせ(旧名称「医薬関連情報」) ..... 4  
平成22年度JAPICユーザ会、薬事研究会開催案内 ..... 4  
JAPIC Guide 2010を発行しました ..... 4  
承認品目全データの提供 ..... 5  
「禁忌データ」「相互作用データ」「用法用量データ」の提供が隔月から毎月に変わります! ..... 5  
4月発売!! JAPIC 医療用・一般用医薬品集インストール版 2010年4月版(Windows対応CD-ROM) ..... 5  
4月発売!! JAPIC OTC医薬品CD-ROM 2010年4月版(Windows対応CD-ROM) ..... 5

### ■トピックス

JAPICサービスの紹介  
「JAPIC Daily Mail(JDM)」「JAPIC Daily Mail Plus」「PubMed代行検索」 ..... 6  
第38回JAPIC医薬情報講座を終えて ..... 7

### ■コラム

薬剤師の現場「薬剤師と研究、薬剤師会とシンクタンク機能」  
社団法人千葉県薬剤師会 薬事情報センター長 飯嶋 久志 ..... 8  
くすりの散歩道 No.34  
「印籠、薬籠、家康」 前(財)日本医薬情報センター理事 山地 正克 ..... 10  
「各国のアロマテラピー事情」  
(財)日本医薬情報センター 医薬文献情報担当 森田 奈津子 ..... 11  
会員の声「My Thinking Time」  
株式会社ツムラ 信頼性保証本部薬制部薬事課 古家 孝之 ..... 12  
外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報より(抜粋) ..... 13

■図書館だよりNo.238 ■情報提供一覧 ..... 15

## 存在意義

(財)日本医薬情報センター  
理事長 首藤 紘一 (Shudo Koichi)



JAPICの存在意義を考えてみる。

### まず、現状の存在意義：

この評価は簡単である。すなわち、今、JAPICが存在しない場合を考えれば、その存在意義がわかるはずである。JAPICがなくても、代わりがあるからいいよという部分もある。

添付文書データと医療用医薬品集は、ほとんど完璧だよ。ほかにも代替えがあるけれど。

JAPICの医薬文献・学会情報速報サービス(JAPIC-Qサービス)は量も質も高いよ、もし、JAPICがないと、どうしたらいい？

5,000もの学会と400の雑誌に目を通すには大変で金もかかるね。そうなったら、当分の間、安全対策部門は開店休業状態になるか、毎日残業してもできないよ。体制がととのったらボチボチやりましょう、という会社もありましょう。そんなことになったら、どうしたらいいの、どうにもしょうがないよ、とウロウロする所もありましょう。ひとつ抜けると取り返しのつかない大リコールにつながるかもしれない。怖い、こわい。

このグローバル化した世の中で、世界のインターネットサイト80箇所を、毎日、それも外国語のページを見て回るなんてとうていできないわ、出来ないからしょうがない、など言っただけならいられない。これは海外規制措置情報サービス (JAPIC Daily Mail) です。

もうひとつ、臨床試験情報(治験登録)：治験の公開登録データベースとして公認されているサイトだよ、企業

にとっても患者にとっても、今では、不可欠な役割を果たしているよ。

医薬品の構造式集を薬学部の学生全員に配布している。これがないと、講義で困るよ、大事な教材なんだよ。6年制の薬剤師は化学ゼロに向かっているのだから、せめて薬の構造式がすこーしでもわかる学生にしたいよ。

### これからのこと：

新しいこと何か進めているの？

はい。これまで手薄であった海外医薬情報の充実を図っています。4月から大きく変身します。2つ目は、病名です。添付文書の効能効果は必ずしも病名ではないのです。症状のこともありますし、同じ病名とみなせる疾患が多数あります。慣用語や方言もあります。しかし、ある薬を処方するには病名が必要です。そして、医療費の保険請求には医薬品コードと標準病名コードが必要です。添付文書の効能効果と標準病名を関連付けたのが「添付文書記載病名データベース」でその冊子体が「添付文書記載病名集」です。経験や慣習に基づくのではなく、出来るだけ論理的に、系統的に制作をすすめてきて、ほぼ完成しており、医療の電算化にとって大きな役割を果たすべく内容の充実拡充をはかっています。すでに多数の医療関係機関でご使用いただいておりますし、ネットで検索も出来ます。事業として成立するかどうか明らかではありません。しかし、必要なことです。

「副作用が疑われる症例報告」が医薬品機構から発せられています。FDAから「AERS」という300万件以上の副作用報告がデータベース化されています。安全対策上、また研究開発において、これらの情報を有効に利用しない手はありません。これらのデータベースの重複や医薬品名称の整理をしてデータ解析に適した形の情報をまもなく提供することができます。

JAPIC-QサービスはJAPICの重要な事業ですが、労力とコストがかかっています。このコストを大幅に削減し、また網羅性を高めるべく基盤を整備しています。活用できる時になればJAPICの利用価値は大きくアップすると思います。

このように、継続的に新しい事業を準備していますが、もっと長期的な計画が必要です。ひとつは、新しい財団法人の形態に関してですが、上に示した進捗中の事業などは公益認定財団の場合はいろいろな難しい問題を生じかねません。その他財政の形を考察したところ、先般に理事会、評議員会において、JAPICは一般財団法人に向けて準備をしていこうということになりました。寄附行為を定款に変更するに当たって、検討しなければならないことがいくつかあります。これから一年近くをかけて慎重に案を練っていきます。

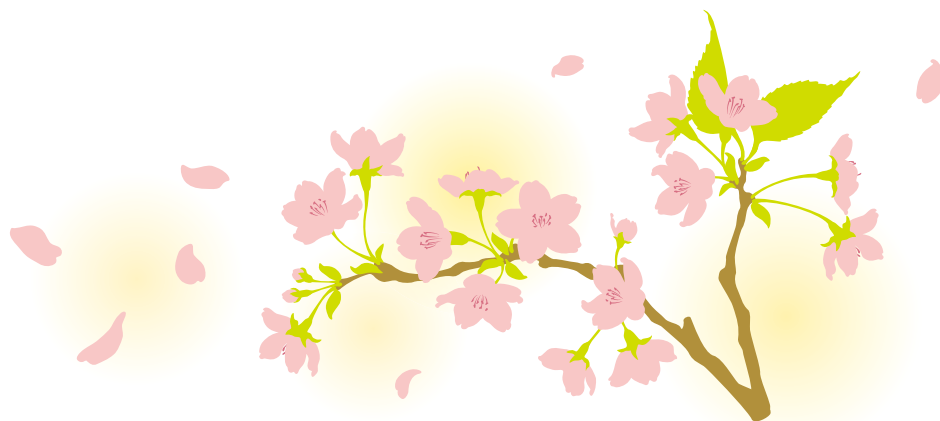
JAPICは独立性の高い機関ですが、その独立性を保ち、中立で公正な、客観的な判断のもとに、求められる情報を提供することができるように、組織の上でも、役員および職員が意識を高揚できるようにしていかなければなり

ません。JAPIC役職員はどのような基本的な考え方で仕事を進めていくべきか、もう一度繰り返して反省する時でもあります。

公益法人のなかには自主性を持って事業を進めにくいところがまま見られます。寄附行為上の制限や資金の問題、それから硬直しがちな人事、過去からのしがらみ、競合の団体がある、不透明な慣習がある、などなどが制約になって、思うことが出来ない団体が少なくないようです。また、役所的な予算主義で年度末には予算を使い切らねばならず、何か新しいことや緊急なことをしようとしても次年度の予算という形で先送りになります。さらに、あまりに民主的過ぎて合意形成が出来る計画しか進められないという所もあります。

JAPICはこれらのマイナス要因を取っ払うべく努力をして一部は理想的になっています。職員の待遇についても昇給停止や役職定年の導入などいち早く取り入れましたが、職員の協力があったことで、職員が満足し積極的に仕事を進めていくことができ、良い事業が育てられ、JAPICの存在価値を高めることができます。

製薬企業、医療機関、そして患者を含めた医療関係者にとって、なくてはならないJAPICへ向けて、役職員、力をあわせて努力いたします。引き続きのご支援をお願いいたします。



## 「JAPIC Pharma Report 海外医薬情報」 発刊のお知らせ(旧名称「医薬関連情報」)



海外の医薬品等の承認、安全性、有効性、ニュースに関する情報の日本語概要を収載しております「医薬関連情報」月刊誌は、2010年4月から「JAPIC Pharma Report 海外医薬情報」と名称を変更、表紙を一新いたします。さらに、新たな海外文献の安全性情報を加え、安全性情報の充実を図るなど、内容も再編し、リニューアルいたします。

主な変更・追加内容について以下にお知らせいたします。

### ◆海外文献の安全性情報の収集拡充

安全性情報の充実を図るため、情報源とする雑誌採択の範囲を拡大し、新たな海外文献の安全性情報を追加します。従来の主要医学雑誌(JAMA、NEJM、BMJ、Lancet等)からの情報に加え、その他の情報源としてPubMedを利用して収集した雑誌等からの安全性情報について、医薬品名と副作用および書誌情報を提供いたします。

### ◆承認情報

利便性を図るため、従来「情報源別」で分かれていた承認情報(「ニュースダイジェスト」の承認情報、「新発売・承認医薬品」の承認情報)を、承認情報として一箇所にまとめて掲載するとともに、新たに国内未承認薬の欧米における承認情報も提供いたします。

### ◆書式

より読みやすく、見やすくするため、主要医学雑誌からの海外文献情報(安全性、有効性)の日本語抄録、概要は文字サイズを大きくし、承認情報を除くニュースは2段組とし、内容をタイトルと簡単な概要に分けて掲載します。

### ◆発行日変更

これまで毎月最終金曜日を発行日としていましたが、2010年4月から毎月最初の金曜日に変更します。4月号は4月2日発行となります。

「JAPIC Pharma Report 海外医薬情報」は、承認から安全性情報まで、最新の海外の医薬関連主要情報を毎月提供いたします。今後ともご活用下さいますよう、宜しくお願いいたします。

## 平成22年度JAPICユーザ会、薬事研究会開催案内

平成22年度のJAPICユーザ会、薬事研究会を次の日程で開催します。詳細は次号およびホームページでご案内します。

### ☆JAPICユーザ会

平成22年6月1日(火) 東京 日本薬学会長井記念ホール 13:00-17:00

平成22年6月3日(木) 大阪 プリーゼプラザ803 13:00-17:00

### ☆薬事研究会

平成22年6月10日(木) 科学技術館 サイエンスホール 13:00-16:30

## JAPIC Guide 2010を発行しました

3月末にJAPIC Guide 2010年版を発行しました。本書はJAPICの事業活動を一覽でき、内容を簡単に把握できることを目的に作成しました。全体構成として前半部分をJAPICサービス編として事業内容を7項目に分け、それぞれの概要、特長、利用方法、料金などを掲載しました。後半部分はJAPIC付属図書館の主要な所蔵資料について簡単な解説をつけてご紹介しました。JAPICのサービスをご利用いただく際の参考資料としてご利用ください。会員の皆様にはお届けしました。ご希望の方には贈呈いたしますので必要部数をご連絡ください。

\*お問合せ先:事務局 業務・渉外担当 (TEL:0120-181-276)

## 承認品目全データの提供

承認品目、承認年月日、承認申請時の会社名がひと目でわかる医薬品の製造（輸入）承認データをご提供いたします。データは1931年～2009年12月までの79年間の医療用医薬品を対象としています。自社商品の承認情報の管理など、この機会に是非ご利用ください。

- データ形式 カンマ区切りテキストデータ (csv)
- 価格 会 員：31,500円 (税込) 非会員：52,500円 (税込)

\*お問合せ先：事務局 業務・渉外担当 (TEL：0120-181-276)

## 「禁忌データ」「相互作用データ」「用法用量データ」 の提供が隔月から毎月になります！

昨年10月より提供を開始しました「禁忌データ」、「相互作用データ」、「用法用量データ」の提供（現、2ヶ月に1回）を4月からは毎月提供させていただきます。ユーザの皆様には新しいデータをより早くご利用いただけるようになります。

- 「禁忌データ」…医療用医薬品添付文書の警告、禁忌、原則禁忌を内容により分類し、禁忌となる病名を抽出したデータです。
- 「相互作用データ」…医療用医薬品添付文書の相互作用に記載されている相互作用薬剤名を抽出し、一般名と関連付けたデータです。
- 「用法用量データ」…医療用医薬品添付文書の用法・用量に記載されている内容から抽出したデータです。

★サンプルデータがございますので、ご利用を検討されているお客様はお気軽にお問合せください。

\*お問合せ先：事務局 業務・渉外担当 (TEL：0120-181-276)

## 4月発売!! JAPIC 医療用・一般用医薬品集インストール版 2010年4月版 (Windows対応CD-ROM)

- 収録データ (2010年3月までにJAPICが入手した添付文書情報に基づく)  
JAPIC医療用医薬品集およびJAPIC一般用医薬品集の本文データ
  - 特長 医療用および一般用医薬品データの検索・表示・印刷・テキスト出力が可能。  
インターネット経由で“iyakuSearch”掲載の医療用医薬品添付文書PDFを表示。  
院内採用医薬品の登録、データ編集・出力が可能。院内医薬品集の作成を補助します。
  - 価格 単品15,000円・年間セット (4月・7月・10月・1月版の4枚セット) 25,000円 (共に税・送料込)
- \*お問合せ先：事務局 業務・渉外担当 (TEL：0120-181-276)

## 4月発売!! JAPIC OTC医薬品CD-ROM 2010年4月版 (Windows対応CD-ROM)

本CD-ROMは、JAPIC医療用・一般用医薬品集インストール版よりも一般用医薬品に特化したものです。

- 特長 国内流通のほぼ全ての一般用医薬品（一部の医薬部外品含む）、約12,000製品の添付文書記載情報〔2010年3月までの情報〕を収録し、検索・表示・印刷・テキストデータ出力が可能。  
JANコードによる製品直接表示機能。  
インターネット経由で“iyakuSearch”掲載の最新一般用医薬品添付文書PDFを表示。  
取扱い製品登録機能及び第一類医薬品の販売に必要な情報提供文書の出力機能。
  - 価格 単品3,150円・年間セット (4月・7月・10月・1月版の4枚セット) 10,500円 (共に税・送料込)
- \*お問合せ先：事務局 業務・渉外担当 (TEL：0120-181-276)

## ☐☐☐ JAPICサービスの紹介 ☐☐☐

# ■ 「JAPIC Daily Mail (JDM)」「JAPIC Daily Mail Plus」 「PubMed代行検索」

### 《JAPIC Daily Mail (JDM)》

－医薬品・医療機器等の安全性に関する海外規制措置情報サービス－

- ①外国における安全性措置情報の収集に役立つサービスです。  
外国における医薬品・医療機器等の安全性に関する措置情報の迅速な入手および関連医薬品等の対応のためのツールとして高い評価をいただいております。また、外国だけでなく国内の措置情報の収集にも役立ちます。
- ②最新の措置情報を毎日、電子メールで提供します。  
米国FDA、EU/EMEA、英国MHRA等の規制当局による、医薬品の製造販売等の中止、表示改訂、回収情報等、安全性に関する措置の情報を選択し、毎日電子メールで提供します。
- ③措置情報の収集労力と費用を節減できます。  
7カ国2機関（米、英、独、豪、カナダ、スウェーデン、ニュージーランド、EU、WHO）、および日本の規制当局等のホームページ86サイトを毎日チェックし、最新の措置情報を日本語概要、該当原文のURLをつけて、電子メールで提供します。
- ④「プレ送信」と「本送信」の2回、提供します。  
「プレ送信」は午前中に、当日提供予定の措置情報を、日本語概要を付けずに原文のまま送信します。迅速な情報提供を求めるユーザー様のご希望にお応えします。  
「本送信」は午後、日本語概要を加えて送信します。
- ⑤医療機器の措置情報の収集にも役立ちます。
- ⑥データベース（iyakuSearch Plus）も利用可能です。  
「JAPIC Daily Mail (JDM)」は、毎日のメール送信とほぼ同時に、医薬品情報データベース「iyakuSearch Plus」中の「JAPIC Daily Mail DB」にアップされます。JDMサービスをご利用の団体・機関に所属される方は、無料で検索・閲覧することが可能です。
- ⑦無料トライアル  
無料トライアルを行っております。お申し込み後、約1ヵ月間、ご希望のメールアドレスへ毎日JDMを送信します。

### 《JAPIC Daily Mail Plus》

－生物由来製品に関する感染症情報提供サービス－

- ①生物由来製品に関する感染症関連情報をまとめて収集できます。  
有用な感染症情報が掲載される、WHO、OIE、EUや各国機関のホームページの生物由来製品の由来となる生物、原材料、原料又は材料から人に感染すると認められる疾病に関する情報をまとめて収集できます。
- ②生物由来製品における措置情報も収集できます。  
上記のサイトに加え、JAPIC Daily Mail (JDM) でお知らせする外国規制当局による医薬品等の安全性に関する措置情報からも、生物由来製品における措置情報（感染症に関するもの）を抜き出し、週1回まとめてお知らせしています。

③動物種ごとに絞り込みができます。

エクセルファイルでの提供となりますので、オートフィルタ機能を使用し必要な動物種での絞り込みができます。

### 《PubMed代行検索》

—PubMedに収蔵される膨大な論文の中から感染症分野に特定し、動物種または医薬品ごとに情報収集するサービス—

①動物種または医薬品ごとに情報収集できます。

感染症について、医学文献データベースPubMedで検索し、月2回（第1、第3水曜日）、ご登録の動物種または医薬品ごとに電子メールにて提供します。

検索結果はデータ用としてCSV形式、印刷用のTXT形式のファイル、および検索式とその結果Search History画面（HTML形式）を添付します。

## 第38回JAPIC医薬情報講座を終えて

3月9日（火）及び10日（水）の両日、東京都渋谷区長井記念ホールにて第38回JAPIC医薬情報講座を開催しました。生憎の悪天候でしたが、初日は110名、2日目は80名の方が熱心に聴講されました。「医療の安全対策と医薬品情報」のテーマの下、厚生労働省医薬食品局安全対策課佐藤室長、医薬品医療機器総合機構安全第一部長谷川課長と、安全対策に関わる行政側からの現況を中心とした講演が2題、新型インフルエンザ流行もあってその現況について国立感染症研究所板村先生にお願いした演題と、感染症専門薬剤師としてNTT東日本関東病院田中先生の演題と、感染症関係が2題、JAPICからの米国大規模有害事象症例報告データベース1題の講演がありました。

重篤副作用疾患別対応マニュアルについては3題で、いずれも各医学会でマニュアル作成に携わられた先生方に講演頂きました。演題は3題ですが、甲状腺機能低下症、甲状腺中毒症が獨協医科大学笠井先生、網膜・視路障害、緑内障が井上眼科病院若倉先生、痙攣・てんかん、ギランバレー症候群が東京医科歯科大学水澤先生、と各2マニュアルずつお願いしたこともあってマニュアルを集中的に聞きたい方々にとっては効率的に受講できたので



はないかと思います。

今回の講座についても従来と同様参加者の方々にアンケートにご協力を頂きましたが、テーマが時機を得ていたせいか、そして講師の先生方の熱演もあって概ね好評でした。本講座については聴講者の所属、専門分野、実務経験等が幅広い所為もあり、今後ともどういふところでフォーカスして企画していくかは課題とするところです。今後取り上げてほしいテーマについては、重篤マニュアルを含む副作用関係の講演が多かったようです。アンケートで頂いた諸々のご意見は次回の講座企画に役立てたいと思います。また、参加されていない会員の皆様におかれましても、講座の演題にご希望があればどんどんJAPICまでご連絡頂ければ幸いです。（M.Y記）

# 薬剤師の現場

## 薬剤師と研究、 薬剤師会とシンクタンク機能

社団法人千葉県薬剤師会 薬事情報センター長  
飯嶋 久志 (Iijima Hisashi)



社団法人千葉県薬剤師会 薬事情報センター（旧医薬品情報センター）は昭和52年に設置された、47都道府県のうち6番目に古い歴史を持つセンターです。その後、昭和54年に日本薬剤師会で「薬事情報センター設置指針」が制定されて以来、現在では全国の都道府県薬剤師会に設置されています。しかし、各センターの規模や業務内容は異なっており、それぞれに特色があります。

当センターの事業は、大きく分けて薬事情報と調査・研究に分類することができます（図1）。

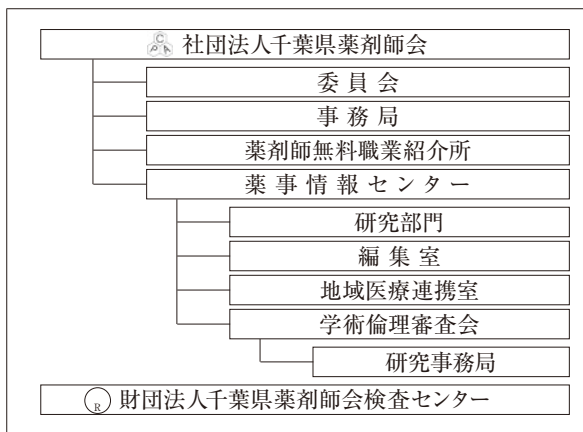


図1. 薬事情報センターの位置付け

前者は他の都道府県薬剤師会と同様に、医薬品情報や医療保険などを通して、さまざまな面から現場の薬剤師をサポートしています。一方、後者は本会のシンクタンク機能を担っており、医療薬学領域の調査・研究を基にして、薬剤師職能の確立や医療環境の向上に努めています。

そこで、本稿では社団法人千葉県薬剤師会 薬事情報センターにおける、調査・研究への取り組み、現場の薬剤師に対する研究支援を紹介させていただきます。

### ●研究部門

現在、研究部門には7名（常勤2名、非常勤5名）が所

属し、各研究員はそれぞれのテーマについて、調査・研究し、学会等で定期的に発表しています。各研究には医療薬学という共通のテーマはあるものの、医療情報システムや薬局製剤、調剤薬の安定性、感染症対策、EBM（Evidence Based Medicine）など多彩に渡ります。最終的にはこれら研究を通して、薬剤師職能の確立と向上、円滑な医療提供体制の確保などを目標にしています。

平成21年度には世界的に新型インフルエンザが流行しました。我が国でも感染者数が増加したことから、当研究部門では支部および現場の薬剤師等に調査し、それを基にして「薬局薬剤師のための新型インフルエンザ対応マニュアルVer.1.0」（平成21年2月20日作成）をVer.1.2まで改定しました。また、平成21年11月頃にはタミフルドライシロップ3%が不足し、タミフルカプセル75を脱カプセルしなければならない事態になりました。当研究部門では財団法人千葉県薬剤師会検査センターと連携し、既に「タミフルカプセル75 脱カプセルマニュアル」を作成していたことから、脱カプセルへの移行を円滑に進めることができました。

研究部門では現在問題となる課題と、将来的ビジョンのための課題について研究しています。

### ●地域医療連携室

今後、我が国ではさらなる高齢化が予測されています。また、国民医療費の圧迫も深刻な問題です。そのため、これからの医療にはいかに医療費を抑制しつつ、患者QOL（Quality of Life）の向上を追究するかが課題となります。また、近年では医師不足等の理由から、医療崩壊が危惧されています。これらを解決するためには、各医療職がそれぞれの専門性を十分に発揮した、医療連携が有用とされています。地域医療連携室では地域医療の中で薬剤師が何をすべきか、質の高い薬物治療を実践するためには何が必要かを調査し、円滑な医療連携に向けた方策を検討しています。特に地域医療における薬局薬剤師の役割としては、薬物治療における有効



性・安全性の確保と患者利便性の向上等があげられ、これらは調剤報酬点数としても評価されています。また、海外の調査では薬剤師が担う疾病管理による、患者アウトカムやQOLの向上が報告されています。薬剤師がより医療の中で活躍し、疾病管理等に携わることで、日本の医療は変わるはずで、そこで当センターでは、EBMの推進、疾病管理プログラムの作成、研修体制の整備などを重点的に進めます。

しかし、以上の体制が整備されたとしても、情報共有や医療アクセスの問題が解決されなければ、地域医療の中で薬局が十分に機能しません。そこで、地域医療連携室では行政や医師会・歯科医師会、看護協会等と協議を進め、円滑な地域医療連携のための環境整備を図っています。

#### クリニカルパスの導入により…

- ・EBM:医療の標準化…患者アウトカムの向上
- ・医療経済:医療費の適正化
- ・医療安全対策:医療事故の未然防止 など

#### そのために千葉県薬剤師会は…

- ・インフラ整備
- ・他職種・行政への対応
- ・薬剤師の研修
- ・EBMの推進
- ・疾病管理プログラムの策定 など

#### その結果として…

政策への反映

- ・診療報酬への影響
- ・薬剤師業務拡大 など

図2. 地域医療連携と薬剤師

### ●学術倫理審査会

薬学教育6年制がスタートし、今後、薬剤師にはさらなる質の向上が求められます。薬剤師は医療人としての資質はもちろんのこと、医療現場での問題点やさらなる改善に向けた、研究者としての資質も必要になってきます。

研究には科学性・妥当性・倫理性が求められることから、厚生労働省では「臨床研究に関する倫理指針」を、文部科学省・厚生労働省では「疫学研究に関する倫理指針」を作成しました。これら指針では倫理委員会による審査を求めていることから、今後、臨床研究等を進めるには倫理委員会の承認が必要になります。しかし、規模が小さい施設では、倫理委員会の設置が困難になります。そこで、施設内に倫理委員会のない薬剤師にも臨床研究等の実施を可能にするため、本会では薬情報センター内に学術倫理審査会および研究事務局を設置しました。審査員は8名（薬剤師5名（大学1名、病院2名、薬局2名）、弁護士1名、一般2名）で構成されています。倫

理審査という、人権保護や患者の権利などを思い浮かべるかもしれませんが、それだけではありません。非科学的な研究は社会や患者に負担をかけることにつながるから、審査会では科学性・妥当性、法的妥当性等についても審査することになります。今後、薬剤師による疫学研究や臨床研究が活発に行われることで、医学・薬学の発展が望まれます。

### ●研究発表から論文執筆

最近では多くの医療薬学系学会が設立され、多くの薬剤師が学会で発表するようになりました。しかし、学会発表の数に比較して、公表される論文数は少ないのが現状です。近年では専門薬剤師制度が設立され、その取得には学会発表や論文執筆などが要求されています。また、保険薬局における基準調剤加算の算定要件では、研修認定の取得、医学薬学等に関する学会への定期的な参加・発表、学術論文の投稿等を行うことが望ましいとされています。そのため、今後は現場の薬剤師にも研究が求められることから、本会では多くの薬剤師に研究発表・論文執筆の機会を与えています。

研究発表については「ちば薬剤師フォーラム」を開催し、当センターでは大会事務局を担当しています。このフォーラムは薬-薬-学連携の一環として、県内の薬学部や関連団体にもご協力をいただいております。これまで2004年から4回開催されています。特に本フォーラムの特徴としては、研究発表に不慣れな薬剤師へのサポート体制として、希望者には要旨の添削を受付けています。参加者にはこのフォーラムをきっかけとして、活発な研究発表を進めていただきたいと考えております。

さらに、多くの研究者は発表した成果を論文として形に残しますが、本会でもその流れを経験していただくために、千葉県薬剤師会雑誌（ちば県薬誌）では投稿論文を受付けています。投稿論文は、レフェリー2名の査読体制を取っています。通常、学会誌での査読は掲載可否の判断を目的としていますが、本会誌では掲載の可否だけでなく、論文の記載方法や研究計画の立方のように、論文を執筆する際の基礎も指導し、いわば教育的な意味も含めた査読をおこなっています。

薬学教育が6年制に移行し、今後はさらに薬剤師への期待が高まってきます。薬剤師には医療人としての知識や技術、態度が必要であることはもちろんのこと、今後は研究者としての能力も求められるようになってきます。また、薬剤師会にはより良い医療環境を整えるための研究が必要になります。それら研究の積み重ねが、将来の医療を大きく変えることにつながります。

## くすりの散歩道

NO.34

## 印籠、薬籠、家康

前(財)日本医薬情報センター理事 山地 正克(Yamaji Masakatsu)

時代劇でお馴染みだが印籠というと、中には薬が入っているものというのが当たり前のように考えられている。しかし元々はその名のとおり、印判や印肉を入れ携帯するものである。これが室町時代のころから丸薬入れに使われだし、旅などでの応急措置薬を入れていたが、江戸時代にはアクセサリーとして紐を通して一方側には根付けを配し、腰にぶら下げる習わしとなったらしい。その容器の塗り、文様等の装飾で工芸品として評価されている。元々くすりを入れる容器は薬籠と称されていたがいつの間にか印籠がそれに代わる物になってしまったようだと言及等にはある。といって薬籠という言葉も使われていないと云う訳ではなく、また「自家薬籠中のもの」という有名な熟語としても残っている。

権威付けという意味では黄門さんの印籠もくすりが入っているより水戸徳川家の印判が入っていた方が表面の紋所と共により意味をなしたとも考えられよう。

処で黄門さんの祖父江戸幕府初代将軍家康はくすりについては専門家であったとの話がある。司馬遼太郎の「霸王の家」(新潮文庫)にこんな

記述がある。「…が、宋哲にすれば実にばかばかしい。家康はつねづね十数段の抽出のついた薬筆筒まで持っており、そこに家康自身が処方して作らせた各種の薬剤が入っている。しかも家康は医者だけしかもっていない「和剤局方」という薬剤の書物を戦陣の間にも道中においても身辺から離さず、ほとんどその内容を諳んじていた。家康の侍医たるものは、職業的屈辱に堪えることなしには勤まらなかった。…」とあり、死ぬ間際自分はただの食傷ではない、と医師の診たてと相違していることを記述している。勿論小説であるので史実とは別に考えざるをえないが、司馬遼太郎は小説を書く時は膨大な資料を集めて読破してから構築したそうであるから、満更家康がくすりに詳しくあったことは作り話でもないであろう。そうでなければ戦国、江戸時代を通じ当時では極めて長寿である74歳まで生き、また天下取りも出来なかったであろう。首記のようにくすりに凝っている家康であれば戦陣時には印籠ではキャバが賄えないので、薬筆筒をそのまま持っていったのだろうか?あるいはもう少し軽い別の何かに入れてお供が携行して行ったのだろうか。



## 各国のアロマセラピー事情

(財)日本医薬情報センター 医薬文献情報担当 森田 奈津子 (Morita Natsuko)

私は自宅でアロマポットやアロマキャンドルを用いてアロマを楽しんでいます。

最近では、心療内科や精神科、産科や婦人科などの一部の医療機関でもアロマセラピーが導入されているようです。そこでアロマセラピーは海外ではどのような位置付けで使用され、用いられているのか各国のアロマセラピー事情について、ご紹介したいと思います。

### ■アロマセラピーとは

日本では「芳香療法」と訳され、花や木など植物に由来する芳香成分（精油）を用いて、心身の健康や美容を増進する技術もしくは行為のこと。

Aroma『芳香』+Therapy『療法』を合わせた造語で、フランス語読みすると「アロマセラピー」、英語読みすると「アロマセラピー」。

### <フランス>

アロマセラピー発祥の地であり、医師による「メディカルアロマセラピー」が確立。医師の管理下で精油を経口的に摂取する方法や植物油で希釈して座薬として肛門や膣に入れる方法がとられている。

### <イギリス>

医療面よりもリラクゼーションを目的としたオイルマッサージが中心に普及している。少量の精油をスイートアーモンドオイル、ホホバオイルで濃度1~3%に希釈してボディーマッサージを行い、リラクゼーションやリフレッシュを被術者にもたらす方法が中心にとられている。アロマセラピストと呼ばれるアロマセラピーの専門家により行われているため、アロマセラピストを養成するスクールが多数ある。

### <ドイツ>

植物療法の一環としてとらえられており、アロマだけではなく、薬草療法、食事療法と組み合わせて行われている。自然療法士が国家資格に認定されており、臨床的な治療を行っている。

### <米国>

非常に人気のある代替医療のひとつといわれている。心地よく健康維持にも有用な方法として、大学での研究も盛んになってきている。

### <オーストラリア>

「家庭の薬箱には精油」というほど生活に根付いている。ユーカリやティートゥリーがアボリジニの時代から薬草として用いられてきた。

### <日本>

日本に伝わったアロマセラピーの方法はイギリス系に近いものであるが、近年では精油への科学的アプローチが進み、代替医療としてアロマセラピーに関心を寄せる医療関係者も増えている。また、精油は薬事法上の医薬品、医薬部外品、化粧品のいずれにもあらず、『雑貨』扱いになっているため、医薬品や医薬部外品、化粧品にあるような効能や効果を謳ったり、宣伝・広告したりすることは薬事法に抵触する。

日本では、アロマセラピーはまだ一部の病院・クリニックでしか展開されていませんが香りの心と体への作用は医療分野でも徐々に評価され、リラクゼーションという領域だけではなく治療領域にも少しずつ展開されていくのではと思っています。

### 参考資料

ルーツofアロマセラピー  
アロマセラピー図解辞典  
アロマセラピー用語辞典



# 会員の声



## My Thinking Time

株式会社ツムラ 信頼性保証本部薬制部薬事課  
古家 孝之 (Furuya Takashi)

### 【会社について】

株式会社ツムラは1893年(明治26年)に創業した歴史ある会社です。当社は「自然と健康を科学する」を経営理念として、漢方薬を通じ人々の健康と医療に貢献することを目標としています。

漢方薬というと葛根湯などドラッグストアで購入できるものを思い浮かべられる方も多いと思いますが、医療現場では7割以上の医師が漢方を処方されています。新薬はそれぞれの症状に対して効果を直接的に発揮します(頭痛には痛み止めなど)が、漢方薬は個人の体質や特徴を重視して症状をみて身体全体のバランスをとることで病気を治していくという考え方です。そのため、なかなか検査では病名のつけられない女性の不定愁訴などによく使われています。

漢方薬と新薬はそれぞれ得意分野が異なります。漢方医学と西洋医学がお互いの長所を生かした治療方法で患者さまによりよい医療が貢献できればと思っています。

### 【担当業務について】

私が所属しているのは信頼性保証本部薬制部薬事課という部署です。信頼性保証本部は安全管理部、品質保証部、薬制部の3部から構成され、GVP、GQP、GPSPを統括する部門となっています。

薬制部は薬事課、薬事監査課、申請業務課に分かれ、薬事課は製販業・事業所のサンプル卸業などの業態管理、表示・広告類のチェック、薬事情報の社内発信などを主な業務としています。表示・広告類のチェックは、製品パッケージに薬事法で必要な表示がされているのかのほかにキャッチフレーズなどが広告基準に違反していないかなども確認しています。また新聞、雑誌等で漢方薬に関する当社とのタイアップ記事については、効能効果を逸脱していないか、行き過ぎた表現はないかなどチェックしています。これらは一人での確認では見落としや判断がぶれたりすることも考えられるので、常に複数で行ない、薬事法違反などを起こさないよう日々注意深く仕事をしています。

薬事情報の発信ということでは、薬事関連書籍を取りそろえておくこともしています。JAPICの医療用医薬品集、一般用医薬品集は常に新しいものを購入し、社員の閲覧ができるようにしています。また、新しい情報を入手ということでは薬事研究会を大切な情報源として使わせていただいています。

JAPICにお願いですが、薬事研究会は当局の方の生の声を聞けるいい機会ですので、今後ともタイムリーな企画をタイミング良く開催いただければと思います。

### 【私個人のことについて】

当社は2007年に麹町から現在の溜池山王に移転しました。私の通勤路は千葉方面から新橋で乗り換えて溜池山王下車になるのですが、移転をいい機会と思い新橋から会社まで25分くらいですが歩くことにしました(雨の日などはさばり気味ですが)。

歩き始めた頃は健康のためと思っていたのですが、今では会社に行くときはその日にやることの項目や段取りを考えたりと寝ぼけた頭を起こすためのいい時間になっています。帰りはその日にやったことや、次の日以降にやらないといけないことなどの考え事をよくしています。

考え事といえば、ちょっと落ち着いて考え事をしたい時には銀座のショットバーに向かいます。こちらのお店は人気があってお店が狭いためもありいつ行っても混雑しているのですが、ハイボールは美味しくマスターがいい人で、一人で行ってボーっと考え事をするのによく使わせていただいています。

こういうショットバーではさっと飲んで帰るのが粋なのでしょうけど、先日は行き詰った出来事もあり手帳に書き込みをしながら2時間くらい滞在してしまいました。

会社と自宅それを結ぶ通勤経路、その中でちょっとだけ日常からはみ出したところでの考え事もいいものです。

# 外国政府等の医薬品・医療機器等の 安全性に関する規制措置情報より – (抜粋)

2010年2月1日～2月26日分のJAPIC WEEKLY NEWS (No.241-244)の記事から抜粋

## ■米FDA

- Videx/Videx EC (didanosine) の表示改訂—非肝硬変性門脈圧亢進症のリスクに関して  
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/default.htm>>
- 米FDAおよびLilly、Zyprexa (olanzapine) の処方情報の変更を医療専門家に通知、統合失調症および双極性I型障害治療薬として思春期における使用に関連して  
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/default.htm>>
- Medwatch「安全性に関する表示変更(2010年1月)」: Boniva (ibandronate sodium (ibandronic acid)) など  
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/ucm200254.htm>>
- Medication Guides (アップデート) —Ampyraなど  
<<http://www.fda.gov/Drugs/DrugSafety/ucm085729.htm>>
- 米FDA、医療用画像検査による不必要な放射線暴露を低減するためのイニシアチブを発表  
<<http://www.fda.gov/NewsEvents/Newsroom/PressAnnouncements/ucm200085.htm>>
- 赤血球増殖因子製剤 (ESAs) : Procrit、EpogenおよびAranespに関するDrug Safety Communication (リスク評価・緩和戦略 (REMS) 下での処方について)  
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/default.htm>>
- 長時間作用型βアゴニスト (LABAs) : 安全な使用に関する新たな要求; 全てのLABAsに対するリスクマネジメントプランと表示変更  
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/default.htm>>
- Exjade (deferasirox) : 枠囲み警告; 処方情報 (PI) の変更  
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/default.htm>>
- Invirase (saquinavir) : 臨床試験データの安全性レビューを実施中; Norvir (ritonavir) と併用した場合の心調律動異常との関連性について  
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/default.htm>>
- Infanrix : 添付文書に未熟児における無呼吸に関する警告を追加して改訂  
<<http://www.fda.gov/BiologicsBloodVaccines/Vaccines/ApprovedProducts/ucm101568.htm>>

## ■Health Canada

- Accutane (Isotretinoin) : 重度の皮膚反応症例との関連性  
<[http://www.hc-sc.gc.ca/dhp-mps/medeff/advisories-avis/prof/\\_2010/index-eng.php](http://www.hc-sc.gc.ca/dhp-mps/medeff/advisories-avis/prof/_2010/index-eng.php)>
- 亜鉛を含有するPoli-Grip製品の長期および過剰使用に関連した骨髄神経障害 (myeloneuropathy) および造血機能障害  
<[http://www.hc-sc.gc.ca/dhp-mps/medeff/advisories-avis/prof/\\_2010/index-eng.php](http://www.hc-sc.gc.ca/dhp-mps/medeff/advisories-avis/prof/_2010/index-eng.php)>

## ■EU・EMA

- European Medicines Agency・CHMPの2月会合（2010年2月15日－19日開催）の月間報告：Aclasta (zoledronic acid) など

<<http://www.ema.europa.eu/pdfs/human/press/pr/10885010en.pdf>>

## ■英MHRA

- Drug Safety Update (Vol. 3 Issue 7, 2010年2月号) : tacrolimusなど

<<http://www.mhra.gov.uk/Publications/Safetyguidance/DrugSafetyUpdate/index.htm>>

- GlaxoSmithKline Consumer Healthcare製造の入れ歯固定剤Polident UltraおよびPoligrip Total Careに関するField Safety Notice

<<http://www.mhra.gov.uk/Safetyinformation/index.htm>>

## ■独 BfArM

- 第65回定期会合（2009年11月12日開催）報告：modafinilなど

<[http://www.bfarm.de/cln\\_029/nn\\_1194774/DE/Home/startseite\\_\\_node.html\\_\\_nnn=true](http://www.bfarm.de/cln_029/nn_1194774/DE/Home/startseite__node.html__nnn=true)>

- Protopic（活性成分Tacrolimus (Tacrolimus)）に関する情報：維持療法の管理についての勧告

<[http://www.bfarm.de/cln\\_029/nn\\_1194774/DE/Home/startseite\\_\\_node.html\\_\\_nnn=true](http://www.bfarm.de/cln_029/nn_1194774/DE/Home/startseite__node.html__nnn=true)>

## ■豪 TGA

- 豪TGAに報告されたH1N1ワクチンPanvaxによる有害反応の疑い、2009年9月30日～12月31日（更新）

<<http://www.tga.gov.au/alerts/medicines/h1n1vaccine1.htm>>

## ■ニュージーランド Medsafe

- Prescriber Update (Vol.31 No.1) 2010年2月：Paradex, Capadex (dextropropoxyphene) など

<[http://www.medsafe.govt.nz/profs/PUArticles/PDF/PrescriberUpdate\\_feb10\\_WEB.pdf](http://www.medsafe.govt.nz/profs/PUArticles/PDF/PrescriberUpdate_feb10_WEB.pdf)>

## ■医薬品医療機器総合機構

- 医療機器の回収に関する情報（2009年度・クラスI）：自動体外式除細動器 カルジオライフ AED-9200シリーズ

<<http://www.info.pmda.go.jp/rgo/MainServlet?recallno=1-0753>>

- 医薬品・医療機器等安全性情報266号：ピカルタミドなど

<[http://www.info.pmda.go.jp/iyaku\\_anzen/file/PMDSI266.pdf](http://www.info.pmda.go.jp/iyaku_anzen/file/PMDSI266.pdf)>

- 使用上の注意の改訂指示（平成22年2月16日指示分）：ワルファリンカリウムなど

<<http://www.info.pmda.go.jp/kaitei/kaitei20100216.html>>

## ■厚生労働省

- 採血時の欧州等滞在歴による献血制限の見直しについて、および採血時の欧州等滞在歴による献血制限の見直しの実施について

<<http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/iyaku/kenketsugo/5monshin2.html>>

JAPIC事業部門 医薬文献情報（海外）担当

記事詳細およびその他の記事については、JAPIC Daily Mail（有料）もしくはJAPIC WEEKLY NEWS（無料）のサービスをご利用ください（JAPICホームページのサービス紹介：<<http://www.japic.or.jp/service/>> 参照）。JAPIC WEEKLY NEWSサービス提供を御希望の医療機関・大学の方は、事務局業務・渉外担当（TEL 0120-181-276）までご連絡ください。

## 【新着資料案内 平成22年2月4日～平成22年2月26日受け入れ】

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。この情報は附属図書館の蔵書検索 (<http://www.libblabo.jp/japic/home32.stm>) の図書新着案内でもご覧頂けます。これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越し下さい。

〈配列は書名のアルファベット順〉

書名	著者名	出版社名	出版年月
AHFS Drug Information 2010	American Society of Health-System Pharmacists	American Society of Health-System Pharma	2010年
治療薬マニュアル 2010	北原光夫 他編	医学書院	2010年2月
FASS 2010 Forteckning over humanlakemedel	Lakemedelsindustriforeningens Service AB,LIF	Lakemedelsindustriforeningens Service AB	2009年12月
FDAの承認審査プロセス 新薬の知識	石居昭夫 著	薬事日報社	2010年1月
標準・傷病名事典 Ver2.0	寺島裕夫 編著	医学通信社	2009年12月
医療機器製造販売申請の手引き2010	日本医療機器産業連合会 編	薬事日報社	2010年2月
医薬品安全管理責任者必携 2009	日本病院薬剤師会 監修	薬事日報社	2010年2月
医薬品承認申請ガイドブック2009-10	日本薬剤師研修センター 編	薬事日報社	2009年12月
科学的根拠に基づく 肝臓診療ガイドライン2009年版	日本肝臓学会 編	金原出版	2009年11月
今日の治療指針 2010年版 (Volume 52) 私はこう治療している	山口 徹 他総編集	医学書院	2010年1月
今日の治療薬2010 ～解説と便覧～	浦部晶夫 他編	南江堂	2010年2月
ポケット版 臨床医薬品集 2010	星恵子 編	薬事日報社	2010年1月
専門医のための漢方医学テキスト 漢方専門医研修カリキュラム準拠	日本東洋医学会学術教育委員会 編	日本東洋医学会	2009年12月
新図書館法と現代の図書館	塩見 昇、山口源治郎	日本図書館協会	2009年12月
詳解GCP省令 GCPの正しい理解のために	日本QA研究会 編	薬事日報社	2009年11月
Side Effects of Drugs Annual 31-A worldwide yearly survey of new data and trends in adverse drug reactions and interactions	Aronson,J.K., ed.	Elsevier (NLD)	2009年
薬事法の基礎 第一版	PAPS:Regulatory Affairs Professionals Society	薬事日報社	2010年2月
全訂版 著作権が明解になる10章	吉田大輔 著	出版ニュース社	2009年9月

## 情報提供一覧

### 【平成22年3月1日～3月31日提供】

出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は当センター事務局 業務・渉外担当 (TEL 03-5466-1812) までお知らせ下さい。

情報提供一覧	発行日等	JAPIC作成の医薬品情報データベース	更新日
〈出版物・CD-ROM等〉		〈iyakuSearch〉 Free	<a href="http://database.japic.or.jp/">http://database.japic.or.jp/</a>
1. 「医薬関連情報」索引	3月26日	1. 医薬文献情報	月 1 回
2. 「Regulations View Web版」No.186-187	3月12日-26日	2. 学会演題情報	月 1 回
3. 「添付文書入手一覧」2010年3月分 (HP定期更新情報掲載)	3月26日	3. 医療用医薬品添付文書情報	月 2 回
4. 「JAPIC NEWS」No.312 4月号	3月26日	4. 一般用医薬品添付文書情報	月 1 回
5. 「JAPIC医療用医薬品集2010」更新情報2010年3月版	3月26日	5. 臨床試験情報	随 時
〈医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等〉 (FAX、郵送、電子メール等で提供)		6. 日本の新薬	随 時
1. 「医薬関連情報速報FAXサービス」No.724-727	毎 週	7. 学会開催情報	月 2 回
2. 「医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Q サービス)」	毎 週	8. 医薬品類似名称検索	随 時
3. 「JAPIC-Q Plusサービス」	毎月第一水曜日	9. 効能効果の対応標準病名	随 時
4. 「外国政府等の医薬品・医療用具の安全性に関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)」No.2140-2161	毎 日	〈iyakuSearchPlus〉 <a href="http://database.japic.or.jp/nw/index">http://database.japic.or.jp/nw/index</a>	
5. JAPIC Weekly News No.244-247	毎週木曜日	1. 医薬文献情報プラス	月 1 回
6. 「感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)」No.331-335	毎週月曜日	2. 学会演題情報プラス	月 1 回
7. 「PubMed代行検索サービス」	毎月第一・三水曜日	3. JAPIC Daily Mail DB	毎 日
8. 「JAPIC医療用医薬品集2010」更新情報Mail2010年2月版	毎月10日	4. Regulations View DB (要:ID/PW)	月 2 回
		外部機関から提供しているJAPICデータベース	
		〈JIP e-infoStreamから提供〉 <a href="https://e-infostream.com/">https://e-infostream.com/</a>	
		〈JST JDream II から提供〉 <a href="http://pr.jst.go.jp/jdream2/">http://pr.jst.go.jp/jdream2/</a>	

JAPIC医療用医薬品集の姉妹書  
重要事項はそのままにコンパクトで低価格に

# 医療用医薬品集 普及新版 2010



- ◆35年の伝統を誇る赤ジャピから網羅性を受け継ぎ、国内使用医薬品17,000製品を収録。
- ◆添付文書の重要な項目に絞って掲載。コンパクトで使いやすい。
- ◆JAPIC医療用医薬品集(B5判・約3,300頁)をもとに、投与上必須の効能効果、用法用量、使用上の注意に着目して抜粋。

2010年2月発行 A5判 約1,500頁 / 5,040円(税込)

## JAPIC 薬事法改正の対応はこれで!! OTC医薬品CD-ROM

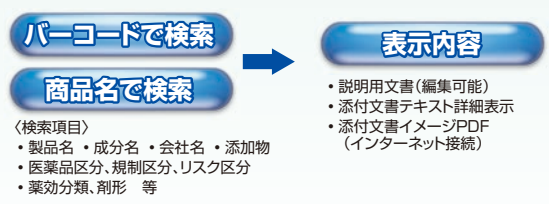
全ての一般用医薬品の検索、  
表示、印刷が可能!



- ◆JANコードから各種データ(データ設定可能)を瞬時に表示(バーコードリーダをご用意ください)。
- ◆添付文書記載情報及びリスク区分などから一般用医薬品を網羅的に検索。
- ◆販売時に必要な説明用文書、店舗名、連絡先も印刷可。
- ◆国内流通一般用医薬品 約12,000品目を収録。
- ◆年4回(1、4、7、10月版)の発売。  
新製品情報に対応。



Windows対応CD-ROM  
2010年1月版(単回) 3,150円(税込)  
年4回分 10,500円(税込)



ジャピック  
財団法人 日本医薬情報センター(JAPIC) 編集・発行 TEL 0120-181-276  
丸善 出版事業部 発売 TEL 03-3272-0521

上記書籍の他、電子カルテやオーダリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書関連データベース(添付文書データ及び病名データ)の販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせはJAPIC (TEL 0120-181-276) まで。

# Garden

ガーデン

このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。リフレッシュにどうぞ!!

### てんだいうやく

天台烏薬と書く(クスノキ科クモジ属、学名:Lindera strychnifolia (SIEB. et Zucc) F. VILLARS)、常緑低木、雌雄異株。江戸時代中期に移入され、現在では北海道以西に広く分布。花期は4月、小さな淡黄色の花が多数咲く。実が熟するのは秋10~11月。根はところどころで肥厚している塊根(かいこん)をなし、芳香がある。

● 特徴的な成分はセスキテルペンのリンデレン(linderene)とその類縁体。(hy)



JAPICホームページより  
<http://www.japic.or.jp/>

HOME ▶ サービスの紹介 ▶ ガーデン

Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。